

全国保護司連盟理事長賞 受賞

京都府推進委員会 委員長賞 受賞

本当の鬼退治をするために

加佐中学校 三年 江口 魁音

僕たちは身の回りで起こる出来事を、一方的な視点からばかり見ているということはないでしょうか。

僕は昨年、道徳の時間に「桃太郎の鬼退治」という教材に出会いました。昔話の桃太郎は、鬼をたおして村人を救ったヒーローですが、この教材には、「めでたし、めでたし。」の続きに、「ボクのおとうさんは、桃太郎というやつに殺されました。」という一言が加えられており、その鬼の子どもの言葉から考えを深めるというものでした。ぼくは、この鬼の子どもの一言に、とても大きく心を揺さぶられました。

ぼくはこの鬼の子どもの言葉を読むまで、鬼と言えば怖いイメージがあったので「鬼は悪党。」桃太郎は鬼から村人を救ったとても素

晴らしい人物で「桃太郎はヒーロー」という固定観念がありました。

僕は桃太郎を支持し、鬼を悪者と思い込んでいました。でも、確かに鬼は、桃太郎によって殺されたのです。このことにより、最初は加害者だった鬼は、ある意味被害者になってしまっているのです。鬼の子どもの言葉には、その悲しみが込められていることにはつと気づかされました。

こういったことは、昔話の中だけでなく、現代社会でも起こっています。

例えば、第二次世界大戦中の一九四五年八月六日・九日に原子爆弾、通称「原爆」が広島と長崎に投下されました。これによって日本は大打撃を受けました。一瞬にして多くの人が亡くなり、その悲惨さに、「原爆」への許しがたい想いを多くの日本人は持っています。

しかし、原爆を投下した、戦勝国のアメリカでは「原爆投下のおかげで戦争終結が早まった。」や、「原爆のおかげで多くの米国人の

命が救われた。」といった、原爆投下を支持する意見も多いという世論調査の結果があります。世界では、まだまだ原爆を支持したり、核兵器はとても強い爆弾で、必要な物というイメージを持つたりしている人もいます。これは桃太郎の物語でいう「鬼(日本)」を退治した「桃太郎(アメリカ)」の側の見かたです。

また、最近では、世の中で話題になるような事件や問題が起きたときの、インターネットのSNSでのトラブルです。世間が事件や問題を起こした人間を「悪」とみなし、一斉にその人物に悪意ある発言で攻撃することがあります。これをネット用語では「たたく」と言います。みんなで「たたく」から自分もその輪に入ってとりあえず「たたく」など周りに合わせている人間がたくさんいるのだと思います。周りに流され、自分の見方を失っているのでしょうか。事件や問題を起こした人間は世間にひどく「たたかれる」ことによって、精神的に追いこまれて、自殺してしまうケースもあります。事件や問題を起こした人間は被害者となり、「正義だ」と思って「た

たく」ことをしていた人間はたちまち加害者となっています。これでは「めでたし。めでたし。」ではなく、新たな悲劇が起こっているだけです。

問題や事件、まして犯罪などは、決して許してはならないことだと思います。しかし、それをしてしまった人を「悪」と決めつけ、その人を攻撃するのが「正義」とする一方的な視点からだけで物事をとらえ、周りのみんなと一緒にあってSNSなどでその人を誹謗中傷することは、同じく許されないことだと思います。

本当の「めでたし。めでたし。」にするためには、事件や問題を起こしてしまった人は、二度と繰り返さないようにしっかりと反省すること。そして、周りの人たちはその人を「たたく」ことで退治するのではなく、しっかりと反省できる環境づくりをすることが大切だと思います。「罪を憎んで人を憎まず」です。

憎む心ではなく、人を思いやり支える心が本当の鬼退治につながり、明るい社会につながるのではないのでしょうか。

京都府推進委員会 委員長賞 受賞

子どもの笑顔があふれる社会へ

高野小学校 六年 保田 百合子

最近、私の心を痛めるようなニュースを耳にしました。それは、親からの虐待によって幼児が死亡したという事件です。虐待のニュースをたくさん聞く中でも、特に私が悲しくなったのは、三歳の子どもを八日間も置き去りにして旅行に行ったという親の話です。残念なことに、その子どもは亡くなってしまいました。

私には二歳の弟がいて、弟のことをとてもかわいく思っています。だから、どうしてそんなひどいことができるのか分かりませんでした。でも、弟が泣き止まない時、私は少しイライラしてしまいます。もし私と弟、二人だけだとしたら、もっとイライラしてしまうと思います。そんなイライラが積み重なって、虐待という犯罪が起きてしまうのだろうなと私は思いました。ニュースの親もきつと、子どもと二人だけで、周りに頼れる人もいなくて、つらくなってしまっ

たんだと思います。

つらくなった時には、その気持ちをためこまず、だれかに相談したり頼ったりすることが大切だと思います。だれかが助けてくれると思うと安心するし、つらい気持ちをなくすことができるからです。世の中には、つらい気持ちをためこんでしまい、子どもを虐待することでストレスを発散させる人もいます。子どもは小さくても人形じゃなくて、みんなと同じ人間です。虐待を受けると、大人と同じように傷つきます。自分の苦しい気持ちを解消するためにだれかを傷つけるなんて、ひどいことだと思います。

私は母から、子どもを一時的に預けることができる施設があるという話を聞いたことがあります。私は、子育てにたえきれなくなった親にぴったりだと思いました。施設に子どもを預けている間、親は休むことができるからです。

また、子育て中に悩みを相談できるところや、地域で助け合えるようなところがあるといいと思いました。私の家では、用事がある

時には、おばあちゃんが二歳の弟をみてくれます。だから、母はとも助かっていると思います。みんなの身近にそういう存在があったら、きっと安心して子育てができると思います。

私は、ある詩に出会いました。それは、ドロシー・ロー・ノルトの「子ども」という作品です。その一部に

「安心を経験した子どもは信頼をおぼえる」

「可愛がられ抱きしめられた子どもは、世界中の愛情を感じるところをおぼえる」

という言葉があります。私は特にこの部分が気に入りました。

虐待を受けた子ども、つまり親に愛されなかった子どもは、また自分の子どもに虐待をしてしまうと聞いたことがあります。だからこの詩のように、子どもが安心できる社会、子どもがたくさん愛情を感じとることができる社会をつくっていききたいです。虐待という悲しい犯罪がなくなるように、そして子どもたちの笑顔があふれる社会になるように、みんなで力を合わせていききたいです。

京都保護観察所長賞

それぞれの個性をかくさずに

高野小学校 六年 高辻 愛実

「個性は人それぞれにあります。完璧な人なんていません。」

これは、私の通っている学校の担任の先生に言われた言葉です。道徳の時間に、『あいつ変じゃね?』という話について考えている時でした。

私は「あいつ変じゃね?」と思ったことがあります。相手の見た目やしゃべり方、自分とはちがう考え方をしている様子から、何も考えずに出た一言でした。しかし今考えてみると、「自分は変じゃない、正しいんだ。」と確信し、自分を基準にして言っていたと思います。多くの人が、私と同じような気持ちで言っているのではないのでしょうか。

でも、それはまちがっていることに気付きました。人はみんな、完ぺきではありません。人それぞれに個性があり、それを大切にし

ないといけません。「あいつ変じゃね？」と口に出して言い、それに同調する人が出てくると、それはいじめにつながると思っています。

いじめている人は、ただふざけていただけ、うざいから、おもしろいからと、軽い気持ちでやっている人が多いです。中には、数日経つと、そのことさえ忘れている人もいます。しかし、いじめられている人は、その後何年も、何十年も心に傷が残ってしまうことがあります。

全校集会で、校長先生からいじめについてのお話を聞きました。校長先生は五十年ほど前に友達にいじめられたことを、今も覚えているということでした。私はそれを聞いて、「そんな昔のこと覚えてるんだなあ。いじめられた人は、よっぽどつらい思いをしているんだろうな。」と感じました。

私は、笑顔が大好きです。だから、たくさんの笑顔を作りたいし、みんなを幸せな気持ちにしたいです。そのためには、まず自分自身

が笑顔でいないといけません。私は、「いつも笑顔を」をモットーに、日々を過ごしています。

はいじめられたことがないので、いじめられている人の気持ちは分からないけど、悩みを誰にも言えない、言いたくない気持ちは少し分かる気がします。私はバドミントンの練習に参加していますが、そこでうまくいかなくてくやしい気持ちになり、周りを暗い空気にしてしまったことがあります。チームの仲間は心配してくれましたが、自分のもやもやした気持ちをだれにも話すことができませんでした。ただどある時、思い切って打ちあげてみたら、気持ちがすっきりして軽くなりました。

嫌なこと、困っていることを誰にも言えない気持ちはよく分かります。だからこそ、友達が悩んでいたら

「一度、打ちあげてみなよ。」

と声をかけて、気持ちをすっきりさせてあげられたらいいなと思いました。

たとえ小さいなことであっても、それがいじめにつながって、自殺を考えてしまう人もいます。「あいつ変じゃね？」と思うことがあっても、口に出したり、それに同調したりしないことが大切です。私にできることは小さなことかもしれませんが、一人一人の個性をかくさずに、みんなが堂々と生きていける社会を作っていきたいです。みんなが笑顔で幸せだと感じられるような、明るい社会を目指していきたいです。
